



- ① ジョン・エリクソンによる新しいパスワード解析方法のプレゼンテーション。この理論を利用すれば解析時間が驚異的に短縮されることになる
- ② 会場に常設されているネットワークルーム。今回は無線LANのアクセスポイントが設置されたため、利用者は過去に比べて少なかったが、提供された端末数は増えていた
- ③ ソーシャルエンジニアリングのパネル。H2K2では恒例のメインイベントの1つ。会場で聴衆を巻き込んだ進行となった
- ④ ソーシャルエンジニアリングのパネルに参加している聴衆。一番大きな会場に立ち見でも入れないほどの混みようだった

Jump www.hzk2.net

FBIも注目する最新セキュリティテクニック ハッカーミーティングの祭典「H2K2」開催

7月12から14日までニューヨークでH2K2という数年に一度のハッカーの集会が開催された。H2K2とは“Hackers Of Planet Earth 2002”の略称であり、『2600』というハッキングをメインテーマとしている雑誌が主催している会議だ。以前は3年に1度の開催であったが、2000年から2年に1度の開催となっている。

2600は毎月第一金曜日に「2600ミーティング」と称して世界各地のそれぞれ決められた場所で集会を開いている(日本では六本木アークヒルズの広場となっているが誰も来ていないようだ)。H2K2は2600ミーティングやIRCなどで知り合った世界中のハッカーたちがニューヨークに集まり、3日間スピーチを見聞したり、パネルディスカッションに参加したり、もしくはなにも参加せずひたすらホテルの部屋で仲間と話をしたりして過ごす。

今回の参加者は3000人近くにのぼり、前回よりも増えているようだった。会場となったペンシルバニアホテルには、開催期間中ネットワークルームが設置された。ネットワークルームに置かれているコンピュータ端末数も前回に比べて圧倒的に増えていたが、無線LANの基地局も置かれており、ネットワークルームを利用する人よりは、廊下で座って無線LANを利用する人のほうが多かったようだ。もっとも、無線LANを利用している人からさらに恩恵に授かろうと指向性のあるアンテナで狙いを定めている人も多かった。

プレゼンテーション、スピーチ、パネルディスカッションは3つの部屋で開催され、ハッキングと社会的な問題からセキュリティ業界の動向まで多岐に渡り議論された。ソーシャルエンジニアリングパネル、CDC(Back Orificeを開発したことで有名なハッカー集団)のプレゼンテーション、キービッキングのデモといったものが特に興味を集め、いずれも会場に人が入りきらないくらい大盛況だった。

非常に興味をひいたのはジョン・エリクソンによる“Password Pro Matrix”だ。これはシャドウ化されたパスワードの復号を今までとは比較にならないほどの短時間で可能にする効率化の手法だ。ストレージ容量の問題が現在はあるため、5文字以上のパスワードに対しては現実的な手法ではないが、近い将来ストレージの容量がさら増大したときに、より現実的な手法として広まることは間違いなさそうだ。

オサマ・ビンラディンが商品の写真の一部にメッセージを隠蔽してeBayに掲載したとされているが、その手法であるステガノグラフィーという技術についてはピーター・ウェイナーが解説していた。日本でも海賊版ソフトウェアの交換ではおなじみの技術だ。ここでは圧縮技術を含め、秘密の情報をMP3に埋め込む方法などを紹介していた。技術的な話と技術を知らなくても理解できる話を取り混ぜてプレゼンテーションをしていたため、比較的誰もが聞き入っていたようだ。

最近では例年8月にラスベガスで開催される世界一有名なハッカー集会DefConを始め、優秀なハッカーが集まる場所には、政府関係者(FBIやNSAなど)がリクルート活動にきているという。実際に著名なハッカーが政府関係の仕事をしていることはかなり多い。今回のH2K2でも明らかに政府や軍関係者と思われる人物がかなり見受けられた。ただし、残念ながら私の知る限り政府に採用されたという人はいなかった。もっとも、実際されたとしても秘密にしている可能性はかなり高い。

H2K2は実に色々なタイプの人間が集まってくる。10代のいたずらざかりの少年たちから政府関係の年寄りまでだ。これは到底日本では見られない光景だが、技術、理論的な点においてはいくつもの新しい発表(それが正しいか正しくないかは別問題だが)され、企業や政府の研究機関では研究されないような内容も多く扱われている。しかしこれらの発表がセキュリティを高める技術に次々に応用されてきたことも確かなのだ。たとえば、脆弱性を発表するということは、その脆弱性を修正すれば1つ安全性が高まるということになる。そういった意味でもこの集会の意義は大きい。現に参加しているハッカーやFBI、NSAの人とオフラインで存分に議論ができる。このような場所はこの集会以外では考えられない。このようにH2K2が開催されたことは、セキュリティ業界にプラスの方向に作用しているのだ。(Kasahara Ken)



実際に景品がもらえるオンラインのクレーンゲーム 「バンプレスト」ととるとるネットキャッチャー」

Jump www.big-e.ne.jp

バンプレストは、オンラインゲームセンター「プライズパーク」で、インターネットを使ったクレーンゲーム「とるとるネットキャッチャー」を7月22日に開始した。動作環境は、ウィンドウズ98SE、Me、2000、XP、ADSLなどのブロードバンド回線が推奨されている。対応ブラウザはインターネットエクスプローラ5.0以降。

とるとるネットキャッチャーは、ゲームセンターなどに設置されている、クレーンゲーム(クレーンを操作して景品を獲得する大型ゲーム機)のオンライン版で、有料ゲームで獲得した景品は配送される。

獲得できる景品は、8月19日現在でポケットモンスターや機動戦士ガンダムなど、73種類。

プライズパークのゲーム料金は、クレーンゲームの種類によって異なり、「コンビニキャッチャー」「スロットリフター」「クレーンキャッチャー」「とるとるネットキャッチャー」の4機種では、1回100円。「コンビニキャッチャーDX」「スロットリフターDX」「クレーンキャッチャーDX」「とるとるネットキャッチャーDX」の4機種では、1回200円と3回500円。どの機種にも無料ゲームがあり、同社は有料ゲームの前に無料ゲームで動作検証と練習を奨めている。

ゲーム料金の支払いは「Bコイン」というプリペイド式の電子マネーのほか、「デジコイン」「WebMoney」「@QUO」にも対応する。「Bコイン」の購入はクレジットカードのNICOS、VISA、Masterか、ローソンのLoppiで支払う。

獲得した景品は、獲得日から最長30日まで保管できる。複数の景品を獲得するまで保管して、まとめて配送することも可能だ。この場合は配送料金が割引かれ、1個から2個では480円の配送料金が、6個以上の景品を同一の住所に配送した場合は280円になる。配送は佐川急便が担当しており、配送状況はウェブサイトを確認が可能だ。

これまで、プライズパークのゲームはJavaベースだったが、とるとるネットキャッチャーはActiveXになり、グラフィックやサウンド、ゲーム性の強化がなされている。

ActiveX化にともない、とるとるネットキャッチャーでは、プレイ前にプログラムのダウンロードが必要になった。プログラム容量は約12メガバイトになる。プログラムはサイトからダウンロードするほか、雑誌付録CD-ROMに収録される予定だ。

グラフィックやサウンドの強化点だが、ゲーム画面がウィンドウ表示から全画面表示

になった。さらに、ステレオのBGMと効果音が追加されている。

連続してゲームをすると、一定回数ごとに「ブレイクタイム」というイベントが発生する。ブレイクタイムになると、景品の代わりに宝箱が表示され、宝箱をキャッチすると、画面右下のピエロのお手玉の数が増える。

ピエロのお手玉の数が増えるほど、「お助けキャラ」という、プレイヤーを手助けする5種類のキャラクターの登場確率が増える仕掛けだ。お助けキャラを個別に解説すると、ネズミはクレーンの位置が景品からずれているときに、正しい位置に景品を移動させる。ネコは、ゲーム終了後にゲームの残り回数を増やす。ゾウは、キャッチに失敗した景品をクレーンに乗せる。サルは、落とし損ねた景品を穴に投げ入れる。オウムはクレーンから落ちそうな景品を支える役目がある。

インプレスが運営するゲーム情報オンラインメディア「GAME Watch」は、「とるとるネットキャッチャー」に対応した「GAME Watch プライズパーク」をリニューアルした。これにあわせて9月2日午前9時までのキャンペーンを実施中で、通常の景品より難易度の低い「GET率激高アイテム」が用意される。



Big Entertainmentのサイトには、プライズパークのほかにもフィギュアのオンラインショップなどが併設されている



「GAME Watch プライズパーク」では、とるとるネットキャッチャーのスタート記念キャンペーンを実施中だ



「とるとるネットキャッチャー」のメイン画面。プログラムは今月号の本誌CD-ROMにも収録している



ADSL 事業者に第4の選択肢が登場 平成電電が12MbpsのADSLサービス「電光石火」を開始

平成電電株式会社は7月30日、月額1,250円の下り最大12MbpsのADSL接続サービス「電光石火」を9月に開始することを発表した。

同サービスは、NTT東西の「フレッツシリーズ」と同じように一般のユーザーに同社の基幹網を利用したADSL回線のみを提供するサービス。メールやホームページスペースなどの付加サービスは提供されず、またインターネットに接続するには同サービスの提携プロバイダーに別途加入する必要がある。しかし、現在のところ「急な立ち上げで、プロバイダーとの提携が進んでいない」(佐藤賢治社長)ため、初年度のIP接続は同社が無料で提供する。また、同社が提供している無料プロバイダー「FREECOM」のユーザーに対しては、次

年度以降も無料で提供する。そのほかのプロバイダーとは順次提携する予定だ。

初期費用は3,000円(NTT回線工事費、DSL契約料をのぞく)、月額費用は1,250円(モデムレンタル料金700円、NTT回線使用料173円をのぞく)で、ADSL接続サービスでは最安値となる。

当初は下り8Mbps、上り1Mbpsで提供されるが、11月から下り10Mbps、12月から下り12Mbpsに増速する。35都道府県の325局からサービスを開始し、年内には1000局以上にまで拡大する予定となっている。電話と回線を共有するタイプ1のサービスについては、ウェブサイトで先行申し込みを受け付けている。

同社は年内には30万件のユーザーを獲得できるとしている。



「電光石火」について発表する平成電電の佐藤賢治社長

Jump www.denkousekka.ne.jp



ライセンス問題に揺れるMP3に一石を投じるか RealNetworksが新システム「Helix」を発表



開発コミュニティ「Helix Community」

リアルネットワークスは7月22日、新たなプラットフォーム戦略「Helix」を発表した。Helixの最大の特徴はオープンソースの開発モデルを採用した点にある。これは、同社がこれまで開発してきたRealAudioやRealVideoといったストリーミング関連の製品について、クライアントや配信サーバーのソースコードを「Helix Community」と呼ばれる開発コミュニティに公開し、コミュニティの参加者とともに新しい配信システムを構築していこうというものだ。予定によれば、クライアントソフトでもっとも重要となる「HelixDNAクライアント」を、開発コミュニティに対して90日以内に公開する予定で、サーバーとエンコーダーのソースコードは2002年終わりまでに提供するとしている。

これに加えて同社が保有しているストリーミング配信に関する特許についても、利用する権利を与えることも明らかにした。シェアを拡大するマイクロソフトへの対抗策として、オープンソースコミュニティの開発力を利用しようというものだ。

また、これと同時に配信サーバーの新製品「Helix Universal Server」も発表された。同サーバーでは、RealAudioやRealVideoだけでなく、QuickTimeやMPEG-4、Windows Mediaの配信にも対応している。また7月24日には、ロイヤリティフリーのオーディオフォーマットとして開発が進められている「Ogg Vorbis」もHelixプラットフォームに統合する作業を開始したことも発表されている。

Jump www.real.com



「AirStation」に802.11a/b両対応製品がラインナップ メルコ「WLM2-A54L11G」発売

株式会社メルコは、BUFFALOブランドのAirStationに、IEEE 802.11a規格準拠の「AirStationPro Plus」シリーズを追加すると7月31日に発表した。

5.2GHz帯を利用した最大データ転送速度54Mbpsを実現するIEEE 802.11a製品は、すでにインテルなど数社から発売されている。後発となったメルコが投入するAirStationPro Plusシリーズでは、まず8月末に、IEEE 802.11aと、2.4GHz帯/最大データ転送速度11MbpsのIEEE 802.11bとの両方の通信規格に対応したインテリジェント無線LANアクセスポイント「WLM2-A54L11G」を発売する。

メルコはAirStationPro Plusを企業向け製品と位置付けている。すでにIEEE 802.11bの無線LANシステムを利用してい

る企業でも、PCカードなどのクライアントをそのまま活用し、無線アクセスポイントをWLM2-A54L11Gに交換するだけでIEEE 802.11aを併用できるようになる。

この製品は内部にMini-PCIバスを使っている点が特徴で、Mini-PCIバス専用のIEEE 802.11a対応の無線アダプター「WLI-MPCI-A54G」をあらかじめ組み込んでいる。一方、このWLI-MPCI-A54Gアダプターを組み込まずにMini-PCIバスをそのまま空けた状態にしているIEEE 802.11b対応の無線LANアクセスポイント「WLM2-L11G」も9月上旬に発売する。

メルコはMini-PCIバスの採用により、将来的には2.4GHz帯で最大データ転送速度54Mbpsを実現するIEEE 802.11gへの拡張も考慮している。



価格は、WLM2-A54L11Gが12万8,000円、WLM2-L11Gが9万8,000円(外観は一緒)。IEEE 802.11a通信時は152bit WEPのセキュリティにも対応している

Jump www.melcoinc.co.jp



プロ向けツールを使って中学生は“クリエイター”になる メディアアーティストが教える「中学生PCクラブ」が渋谷区で開催

メディアアーティストが子どもたちにコンピュータを使った作品作りを教える「中学生PCクラブ」が、渋谷区上原社会教育館の主催で7月25日から6日間、渋谷区の中学生を対象に行われた。講師として参加したアーティストはminim++のユニットで活動する近森其氏と久納鏡子氏および作曲家の山田真由美氏。カリキュラムは「デジタル絵本を作る」をテーマに、Flashでアニメーションを作成し、Cubasisで音楽を作成して最終的にFlash上で1つにした作品にするというもの。特に子どもたちによる“共同制作”を念頭に入れており、音楽の作成には、リットミュージックが提供する音楽共同制作のためのASP「アストロセッション」を使用した。

実際に子どもたちの作品を見ると完成

度が高く、習熟度が早いことが伺えた。企画を実現したクールステーツ・コミュニケーションズの岡田智博氏は語る。

「大人と違って中学生たちは“表現したい”という欲求がある。ツールの使い方が目的ではなく、表現するためにツール上で何をすればいいかがはっきりしている分、覚えも早い。問題は使用したコンピュータが非力なこと。渋谷区が昨年IT講習会用に導入した端末を使ったが、スペックが低くマルチメディア教育には適していない。ワープロやメールだけがIT教育ではなく、表現の幅を広げるためにも、政府は環境作りについて考慮すべき」

岡田氏によれば、今後もこういった活動を自治体や企業と共同で進め、新しいITの教育活動を広げていきたいと言う。



アストロセッションとCubasisを使って音楽の作り方を教わる中学生の生徒

アストロセッション
Jump www.astrosession.net

クールステーツ・コミュニケーションズ
Jump www.coolstates.com

ネットワーク経由でも使えるDVカメラ キヤノン「IXY DV M」発売

Jump canon.jp

キヤノン株式会社はインターネット経由で遠隔操作可能なコンパクトDVカメラ「IXY DV M」を9月上旬より発売する。価格はオープンブライズだが、店頭価格は13万円前後となる見込み。また、別売り(25,000円)となるアクセサリキットに含まれる「DV Messenger」を使うことで、パソコンにDV端子で接続したIXY DV Mを外部からコントロールできるようになる。DV Messengerを使うと、相手先となるビデオカメラの再生や録画といった操作や、カードに記録されている静止画のファイル転送ができる。また、映像についてはウィンドウズメッセンジャーのビデオチャット機能を使って転送される。



超小型のデジカメ用新記録メディア 「xD-Picture Card」

Jump www.olympus.co.jp

Jump www.fujifilm.co.jp

オリンパス光学工業と富士写真フイルムは7月30日、超小型の記録メディア「xD-Picture Card」を今秋より発売



することを共同で発表した。これまで両者が製品に採用してきたスマートメディアの後継となる製品で、小型化(2cm x 2.5cm)、高速化(5MB/秒)を実現しているのが特徴。また、1枚で最大8GBまでの容量拡張にも対応しており、販売開始当初は16MB、32MB、64MB、128MBの4タイプ、年末には256MB、来年以降には512MB以上の製品を順次発売していく。また、価格については両社とも、現在発売中のスマートメディアとほぼ同じ程度となる見込みとしている。

あの「フレッツ・ロボ」がついに一般販売へ NTTマーケティングアクト「FII-RII」

Jump www.azzch.tv

NTTマーケティングアクトは8月1日、外部から制御可能な赤外線リモコンとUSBカメラを組み合わせた、タカラの「FII-RII(エフツー・アールツー)」を同社のホームページにおいて販売を開始した。価格は24,800円。この製品は昨年の9月よりNTT西日本のフレッツ・ADSL加入者向けのキャンペーン賞品として提供された「フレッツ・ロボ」と同じもので、パソコンに専用ソフトをインストールし、FII-RIIをパソコンにUSBで接続すると、外部がパソコンやiモード端末からカメラやリモコンが制御できるもの。ただし、フレッツ・ロボと同様に、接続回線はNTT東西のフレッツシリーズに限定される。



Bフレッツ・ベーシックがわずか1,000円で利用可能 「BB.excite」がスタート

Jump cdn.excite.co.jp

ポータルサイトを運営するエキサイトは8月1日より、IIJと提携してインターネット接続サービスとコンテンツ配信サービスを提供する「BB.excite」を開始した。同サービスは回線にはNTTのフレッツシリーズを利用し、バックボーンにはIIJのネットワークを利用するもので、月額料金がフレッツ・ADSL(8Mbps)の場合で月額500円、Bフレッツ・ベーシック(100Mbps)でも月額1,000円と、他社に比べてかなり安く設定されている(別途フレッツシリーズの月額料金は必要となる)。これに加えて、同社ではIIJのコンテンツ配信ネットワークの採用により、高画質なコンテンツが楽しめるとしている。



ブロードバンド時代のコミュニケーションポータル TNetが「Cafesta」をオープン

Jump www.cafesta.com

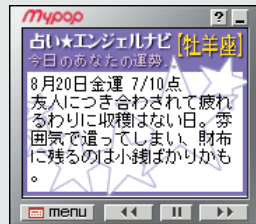
東京通信ネットワーク(TNet)は7月24日より、コミュニケーションポータルサイト「Cafesta(カフェスタ)」をオープンした。会員登録はホームページからのオンラインサインアップで無料で行え、TNetのインターネットサービス「東京電話インターネット」のユーザー以外でも利用できる。カフェスタでは、自分の分身となる「アバター」を選び、チャットやメールに添付する形で他の会員との間で利用できる。また、テキスト、音声、ビデオを自由に選択可能な「カフェスタメッセンジャー」や、登録した仲間のオンライン状態を確認できる「カフェスタサークル」といった各種の機能も提供される。



手軽に使えるプッシュ技術のニュースウェア ユーキャストが「mypop」を開始

Jump www.mypop.jp

株式会社ユーキャストコミュニケーションズ(以下ユーキャスト)は8月8日より、プッシュ型メディアサービス「mypop」を開始した。同サービスはinterQを運営するグローバルメディアオンラインが持つ広告配信に関する特許を活用したもので、登録したユーザーはニュースや天気予報、スポーツ速報といった自分に必要な情報をプッシュ型の情報として受け取ることができ、ユーキャストからは個人情報に応じた広告をmypopのウィンドウに流すことができる。サービスは無料で、クライアントとなるソフトウェアはmypopのホームページから簡単にインストール可能となっている。



DTIとTTNetが広範囲な 業務提携に合意

 www.dti.ad.jp  www.ttnet.co.jp

東京通信ネットワーク(TTNet)とドリーム・トレイン・インターネット(DTI)、三菱電機の3社は7月25日、ISP事業において3社が業務提携すると発表した。三菱電機がDTI株の30%をTTNetに約8億円で譲渡する。ユーザー数はTTNetとDTIあわせて50万強。3社はDTIの顧客サービスのノウハウとTTNetのインフラ技術のシナジー効果が期待できるとしている。

NTT-BPが私鉄の駅で 無線アクセススポットを開始

 www.ntt-bp.net

NTT-BPは8月1日より、関東の私鉄と提携して駅やホテルで利用可能な無線アクセスの試験サービス「無線LAN倶楽部」を開始した。スポットとなるのは京浜急行と京王の5駅および両社関連のホテルやレストランで、現在NTT-BPのホームページでモニターを募集している。試験期間は10月31日までで、この間の利用については料金は無料となっている。

OCNとInfoSphereが統合に向けた 準備を開始

 www.ocn.ne.jp  www.sphere.ne.jp

NTTPCコミュニケーションズは8月1日、インターネット接続サービス「InfoSphere」の個人向けサービスをNTTコミュニケーションズの「OCN」に統合することを発表した。統合予定日は10月1日。NTTPCでは今回の統合により、ホスティングサービスなどの法人向けサービスに特化する。また、法人向けの接続サービスもInfoSphereが継続して提供する。

ファーストサーバーのホスティング サービスがサイボウズに対応

 www.fsv.jp

ファーストサーバ株式会社は7月18日より、グループウェアの「サイボウズAG」をレンタルサーバー環境にインストールできる「サイボウズAG 簡単インストール機能」の提供を開始した。対象となるのは同社のレンタルサーバー「ビジネス300」以上のコースを利用しているユーザーで、価格は10ユーザーの基本セットの場合で68,000円となる。

ニフティがソフトウェア販売 「Software on Demand」を開始

 www.nifty.com/sod/

ニフティは8月5日より、PC向けゲームなどのソフトウェアを有償で配信するサービス「Software on Demand」を開始した。配信されるのは「大戦略VII」や「イースI完全版」といったゲームが中心で、ソフトウェアがユーザーに必要な部分のみが配信され、PCには暗号化された形で保存される。また、料金は利用に応じての月額課金となる。

トレゾーラが人気テレビ番組の ブロードバンド配信を開始

 www.tresola.com

トレゾーラは9月1日より、TBS、フジテレビ、テレビ朝日で放送されていた番組をストリーミング配信する「Chance!@トレゾーラ」を開始する。料金は毎月50～60本配信される番組がすべて見られる「ベーシックパック」で月額1,000円。利用には、トレゾーラと提携しているプロバイダー(OCN、DreamNet、So-net、All)からの申し込みが必要となる。

AFTER CARE

2002年9月号において以下の誤りがありました。

P.266「NEWS WAVE」にて、種市健氏の記名の誤りがありました。

【誤】種石健 【正】種市健

P.296「無線ホットスポット情報局」にて、店名の誤りがありました。

【誤】TALES CAFE 【正】TILES CAFE

「インターネット白書2002」初版第1刷において以下の誤りがありました。

P.259「インターネット関連組織一覧 APTLD」

この正しいPDFファイルは、付録CD-ROMから入手することができます。

本文1段め上から2行め:

【誤】アジア太平洋地区 【正】アジア太平洋地域

9行目:

【誤】Remesa Kumar Nadarajah氏

【正】Ramesh Kumar Nadarajah氏

12行目:

【誤】事務局は 【正】APTLD事務局は

15行目:

「日本からの参加機関は、」のあとに「JPドメイン名の登録管理業務を行っている」が入ります

本文2段目上から2行目:

【誤】ドメイン名の登録ポリシーや紛争処理、国際化ドメイン名の

【正】ドメイン名の登録や紛争処理などの方針、国際化ドメイン名の

9行目:

末尾に次の文章が入ります。

「今年5月には、ICANNの組織改革に関する意見書をICANNに提出した。」

P.7「電力会社もFTTHに参入」

東京電力の田代哲彦様のお写真が別の方のお写真でした。

読者の皆様ならびに関係者の方々には多大なご迷惑をおかけいたしました。お詫びして訂正いたします。



発熱や消費電力の大きいハブを使わない構成に改良。熱暴走を防止するとともに、走行時間も伸ばすことができたという。

展示されていた無線LANシステムは、性能、価格ともに家庭用とあまり変わらないものだが、屋外に設置する指向性アンテナが併用されている。

教育・地域・防災情報配信システムのフィールド実験で使われる実験端末は鷹山が開発したもの。


WINDSには、この試験モデルの4倍の大きさのフェーズドアレイアンテナが搭載される。右上に、1/66スケールの紙模型が置いてある。

日刊のニューメディア『インターネットウォッチ』から注目記事をピックアップ INTERNET Watch DIGEST



無線LANラジコンから光パケットスイッチまで

CRLが電波や通信の先端技術を紹介するイベントを開催

 www2.crl.go.jp/kk/e4,i4/zoozippan/
[Reported by nagasawa@impress.co.jp]

【8月2日】独立行政法人通信総合研究所（Communications Research Laboratory、CRL）が8月2日と3日の2日間、東京都小金井市で一般公開イベントを開催している。CRLが研究・開発に取り組んでいる電波や通信の先端技術が紹介されている。本記事ではその中から、インターネット関連の展示をいくつかピックアップする。

まずは昨年の同イベント記事でも取り上げたIPコントロールカー。IEEE802.11bの無線LANシステムと車載CCDカメラを搭載したラジコンカーを、あたかも自動車に乗っているような感覚でパソコンから操作しようというものだ。

共同開発にあたっているユグドラシル・テクノロジーでは、車載機器や無線LANシステム、パソコン用の操縦ソフトなどをパッケージしたIPコントロールカーのソリューションを年内にも発売したいとしており、すでにイベント関連会社などから引き合いがあるという。

次は、「雪ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ、無線回線で学校をつなぐ」というキャッチフレーズで紹介されている「日本最北端の

地域ネット構築実験」のパネル展示。CRLの電波観測所がある北海道稚内市において、地元の大学と共同で1999年から進められているもので、地域の中学校と高等学校を2.4GHz帯の無線LANやレーザー光空間通信装置で接続。北海道や東北、北陸地方などで無線系ネットワークを構築する際に懸念される、降雪や強風環境でのデータを入手している。

ポケベル技術を見事に活用

CRLでは昨年度より研究者の起業を支援する「プレベンチャー制度」を開始しており、会場では同制度による研究の1つである「教育・地域・防災情報配信システム」が紹介されていた。

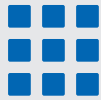
これはポケットベルのインフラを使って各家庭の端末に情報を配信するシステムで、自治体の広報やお知らせ、商店街のチラシ、学校や保育所の保護者向け印刷物などの電子配信を想定している。対象となる家庭だけに一度に同報配信ができるのが特徴だ。カラー液晶を備えたA5程度のサイズの端末がすでに開発されており、

10月には保育園とその職員や保護者の家庭100世帯以上を使ったフィールド実験も開始される。

このシステムでは、配信側の情報入力や送信作業こそパソコン用の専用ソフトを使ってインターネット経由で行うものの、配信サーバー以降は専用線を通じてポケベルの送信所に送られる。その後、ポケベル用に割り当てられた電波を使って各家庭に届く仕組みだ。

このため、一見すると時代遅れに見えるかもしれないが、ポケベルのインフラを使うということで大きなメリットもある。まず、電波が届きやすいということが挙げられる。地下やよほど特殊にシールドされた家庭でなければ、アンテナを設置することなく受信が可能になるという。

さらに、インターネットや電話線などへの接続が不要なので、設置に手間がかからず、高齢者向けのサービスにも活用しやすい。また、既存のインフラがそのまま使えるということで、陰りの見えてきたポケベルサービスのインフラの有効利用にもつながりそうだ。



著作権保有者によるP2Pネットワークへのハッキングを許可 米下院議員が提出した法案が波紋を呼ぶ

Jump www.house.gov/berman/pro72502.htm

[Reported by 江藤浩幸]

【7月26日】米下院議員のHoward L. Berman氏とLamar Smith氏は7月25日、P2Pネットワークでの著作権侵害行為に対して、著作権保有者自身によるハッキングを合法化する法案を下院に提出した。

同法案では、著作権所有者が自らを保護できるよう、P2Pネットワークへ接続し、自助ツールを使って著作権侵害行為を妨害することを許可する。ただし、P2Pネットワークへのウイルス散布やファイルの破壊、ユーザーの個人ファイルのハッキング、合法的なファイル交換に対する無差別の妨害などは許可されない。また、ISPなどの仲介企業の資産を破壊したり、著作権侵害行為に対して必要以上の損害を与えることも禁止される。

同法案提出について、米レコード協会

(RIAA)のHilary Rosen会長兼CEOは同日、歓迎の声明を発表。Rosen氏は「Berman議員が、インターネットにおける著作権侵害行為の深刻な問題に対処するため、革新的手法を取る同法案を提出したことは称賛に値する」とし、「同法は、芸術的作品の制作に時間や労力をかけている著作権所有者が、少なくとも自身の作品を大規模な著作権侵害行為から確実に保護できるようにするものだ。我々はBerman議員やCoble議員などと協力していきたい」とコメントしている。

一方、P2PソフトMorpheusを開発するStreamCast Networksは、同法案提出の計画が明らかとなった6月25日、同法案に反対する声明を発表している。同社のCEOを務めるSteve Griffin氏は「当社



Howard L. Berman氏。

は、Berman議員がP2Pネットワークの利点を認識していることを評価するものの、消費者のコンピュータへのハッキングは容赦できない。ファイル遮断やリダイレクト、誘導などを行うツールは決して自助ツールではなく、多数のユーザーを攻撃する破壊ツールだ」と非難している。



空き缶リサイクルがブロードバンドを誘致?! 兵庫県佐用町で関西ブロードバンドがADSL開局へ

Jump www.h555.net/release/020807.html

[Reported by nagasawa@impress.co.jp]

【8月7日】100人の予約申し込みが集まった時点で開局するというADSLサービス「Commit ADSL」を兵庫県内で展開している関西ブロードバンドは7日、その第1号となるエリアが佐用町の佐用局に決定したと発表した。6日時点で同局の予約申込者が200人を突破した。

佐用町は岡山県との県境の山間部に位置する町で、インターネット環境はやっとフレッツ・ISDNが提供されるようになった段階。ADSLに限らず、ブロードバンドサービスがまったく利用できない地域だったという。関西ブロードバンドでは今回の開局決定を受けて収容局の工事に入り、10月にもサービスを開始する。

同社は当初、予約申込者が555人(現在

は500人に変更)に達した収容局から開局する方式でADSLサービスに参入したが、7月末、他社のブロードバンドサービスが提供されていないエリアについて条件を見直し、156局について「開局特別区」に指定して100人で開局することを発表しており、佐用局もその1つだった。

佐用町では、Commit ADSLの発表後1週間も経たないうちに、ボーダーラインの100人どころかその2倍の予約申込者を集めている点が注目される。実は同町はもとブロードバンドの啓蒙や誘致活動が盛んで、Commit ADSLの発表以前から関西ブロードバンドに対して要望を寄せていたのだという。実際、同町の“悩み”を聞いたことが、Commit ADSLを開始する

きっかけにもなったとしている。

佐用町では、リサイクル活動を推進するボランティア団体で、地元商店街の店主らで構成される「空き缶でもうけてもええ会」が、Commit ADSLの販促に協力する体制をとった。これによりADSLの早期開局が実現し、今後は初心者のサポートなども同団体が対応していくという。空き缶やペットボトルのリサイクルに始まり、地域活性化などのイベントに取り組む住民の活動がブロードバンドの誘致にもつながった。

Commit ADSLを展開する関西ブロードバンドでも、「佐用町の事例が刺激となり、他の地域でもブロードバンド誘致へ向けた住民の活動が活発になってほしい」と述べている。

『INTERNET Watch』ウェブサイト(無料)

Jump www.watch.impress.co.jp/internet/

有料メールサービス(1,800円/6か月)

Jump www.ips.co.jp/watch/info_in.htm

注目のサービス&製品をレビュー

Service & Products Selection



J-Backupがサーバー遠隔バックアップサービスを開始 ITテレコムがJ-Backupの販売を開始



www.it-telecom.co.jp

アイ・ティー・テレコムは、ブロードバンド回線を使って、サーバーのデータをデータセンターのディスク領域にバックアップするサービス「J-Backup」を10月初旬に販売開始する。

対象になるサーバーはウィンドウズNTかウィンドウズ2000をインストールしたサーバーのみとなる。

販売形態は「ASP(Application Service Provider)型」と「OEM型」がある。「ASP型」はバックアップ先がアイ・ティー・テレコムが提供するデータセンターで、料金は初期費用が50万円、バックアップ用のディスク容量が100ギガバイトにつき月額費用15万円になる予定だ。

バックアップ先を、自社内サーバーやデータセンターに設置した自社サーバーに設定できる「OEM型」によるサービス提供では、料金は別途相談となっている。

「J-Backup」の開発はジェイディスクが担当しており、アイ・ティー・テレコムは販売と、ASP型によるサービスのバックアップ先のデータセンターの運営、アクセスラインとなる「Bフレックス・グループアクセス」の販売を行う。

J-Backupでは、バックアップしたいサーバーにバックアップ用の「J-Backup client」というアプリケーションをインストールする必要がある。

サーバーのデータはVPN(Virtual Private Network)を使って暗号化したインターネットを経由して、データセンターまで送信する。サーバーのデータは128ビットのSSL(Secure Socket Layer)で暗号化されるので、安全にデータを転送できる。

バックアップは、毎回サーバーの全ディスク内容を転送するのではなく、変更のあった部分だけを圧縮して転送するので、ネットワーク帯域を無駄に消費しない。さらに、頻繁にデータの書き込みのあるサーバーは、スケジュールを設定してバックアップが可能になっている。

何らかの理由により、バックアップのデータを転送している途中で、転送が中断された場合は、転送が切断された時点から自動的に転送を再開する。このため、すべての差分バックアップ分を転送し直すより効率が良い。さらに、差分バックアップの世代管理は無制限だ。

このほかのサービスとして、データセンターに用意したバックアップ領域の空き容量や、サーバーのバックアップ状況なども提供される。

同社によれば、J-Backupの導入により、遠隔地にあるストレージを世代管理を行いながらバックアップしたり、企業内に点在しているウィンドウズのサーバーを一括してバックアップできるメリットがあるという。

携帯電話やメールでも使える3D技術 グローバルメディアオンラインが3D写真の撮影を開始

グローバルメディアオンライン(GMO)は、クレシスおよび3Dデジタルマックスの2社と業務提携して、携帯電話の画面やHTMLメールでも拡大縮小できる3D画像を表示技術を7月22日に販売した。これにともない、渋谷のGMO本社オフィス内に、3D写真の撮影スタジオ「GMO 3D-photo Studio」を設置した。同社によると、3D技術の販売にはGMOのレンタルサーバー利用者への付加価値の提供と、インターネット広告におけるリッチメディア商品を拡充する目的があるという。

3D画像はGMOのサーバーに置かれるため、自社サーバーやネットワークに負荷がかからない。3D画像の保存場所は、GMOのレンタルサーバーに限られる。サーバー料金は8月31日までのキャンペーン期間中は、月額3,000円。極端にトラフィックが多い場合は、別途で追加料金が発生することがあるが、この場合はGMOから電話かメールで連絡する。3Dメールの代表的な料金は、4000通未満は一律で12万円となっている。メール広告の制作料は別途必要だが、顧客の行動を記録したレポートの作成料は含まれる。

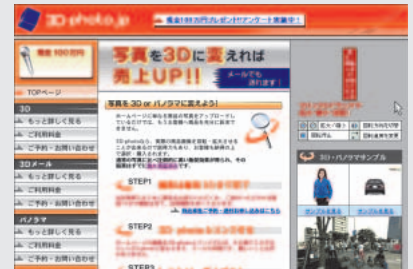
3D画像は、「ファイルスライス方式」を採用することで、動作や表示をほかの3D技術より軽くしたという。ファイルスライス方式は、1枚の画像を複数に分割して必要な

部分だけを適宜転送する方式だ。表示されていない部分のデータは転送されないため、通常の動画より表示が早くなる。3D画像の表示にはJavaアプレットを使うため、プラグインが不要のうえ動作環境を選ばない。

撮影と画像の加工は、東京都渋谷区にある専用スタジオの「GMO 3D-photo Studio」で行われる。撮影は最短で10分で完了するが、利用者の要望にあった3D画像へ加工する時間がかかる。出張撮影にも対応するが、場所や価格は個別の見積もりとなる。遠方の場合、撮影したい商品をGMOまで送付する。生ものや動物の撮影にも対応するが、この場合はスタジオへの持ち込みのみになる。また、商品によっては撮影を断られる場合もある。

3D技術を使ったメールの配信にも対応しているが、配信先は「ふくびきドットコム」「メールイン」「ポイントメール」の3媒体に限られる。自社のメール送付リストを使って3D画像付きのメールを送付するときは、応相談だ。

3D画像および3Dメールでは、顧客の反応分析が可能になっている。表示された3D画像のうち、拡大した位置や回転させた角度、表示した時間を集計できる。これにより、利用企業は顧客が注目しやすい箇所を把握しやすくなる。



Jump www.3d-photo.jp

3Dフォト利用料金

コンテンツ制作料	3万円 1
サーバー月額料金	3,000円(コンテンツ10点まで)
追加料金	300円(11コンテンツ以上)

3Dメール利用料金

4000通未満	12万円
4000から3万通未満	1通あたり30円
3万通以上	1通あたり25円



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp